

## 響け打瀬のハーモニー

打瀬中学校 音魂祭を追う (1)



中学生は燃える年頃だ。部活のレギュラー取りに燃え、体育祭の棒倒しに燃え、受験勉強に燃える。毎年10月に行われるクラス対抗の合唱コンクール「音魂祭」(おとだまさい)も打瀬中の生徒にとっては熱く燃える年間行事のひとつだ。その音魂祭の練習が今年も夏休み前の7月中旬始まった。燃える音魂祭はどのように作られ、中学生は何を体験するのか。10月の本番までシリーズで取材する。【松村守康】

7月12日、午後2:50。この日、新しくできた仮設校舎2階の2-C教室には各学年から選ばれた合計30人ほどの生徒が集まった。音魂祭実行委員会のはじまりだ。司会は3年生女子の桐原さん(実行委員長)と高戸さん(副委員長)。ふたりを音楽担当の木全(きた)先生と松村先生、伊藤先生がサポートする。

実行委員会は今回が第2回。第1回の委員会(6月22日開催)では各クラスで選ばれた音魂祭実行委員が全員集まり、10月の本番までのスケジュール、実行委員の具体的な仕事内容、当日の運営手順などについて先生から説明を受けて終わった。

この日の第2回委員会は事前に準備され委員全員に配られたペーパーに従って手際よく進められた。この日決められたのは、音魂祭のスローガンと必要な係の決定。役割には「CDラジカセ&キーボード管理係」「誘導係」「表彰係」などのほか「めくり看板を書く係」「めくり看板をめくる係」など音魂祭当日の舞台運営上の具体的な係まで網羅されていて驚かされた。これらの内容はすべて事前に3人の先生と実行委員長、副委員長が打ち合わせ、ペーパーとして用意したものだという。

中学校のイベントではいつもスローガンが大書されるが、この決定過程には更に驚かされた。スローガンは事前に各クラスで検討されてきたもので、全クラス分で合計34本が黒板に書き出された。「ひびけ心の

ハーモニー」「打瀬の思いをときはなて」「ひびけ打瀬のメロディー」など、それぞれクラスの想いが詰まった文言だ。いつもは議論し投票して決めるようだが、合意をとるのは大変だろうと思われた。

ここで委員長の桐原さんがひとつの提案をした。「それぞれのスローガンの中で共通してよく出る言葉を選んで、うまくつないではどうでしょう」。早速黒板上でよく出る言葉を抽出し、「メロディー、ひびき、こころ、打瀬」などの言葉が選ばれた。ここで各学年に分かれて文案を検討する。

合唱コンクールは中学校にとっての秋の文化祭だ。高校や大学では生徒や学生の自主運営による学園祭がどの学校でも行われるが、千葉市の公立中学ではこれをクラス対抗の合唱コンクールで行うことが多い。ただ、クラス対抗方式にはある程度の規模(クラス数)が必要で、数年前まで規模の小さかった打瀬中では秋の文化祭は総合的な学習の成果発表などを行ってきた。

打瀬中で合唱コンクールが始まったのは10年ほど前。各学年に数クラスの規模になり、クラス対抗のイベントができるようになってからだ。中学生にとってクラス対抗方式は団結心や競争心をかきたてる。「歌はちょっと…」という男子もクラスのためとなると話はちがう。毎年10月に中学校のアリーナで行われる合唱祭では仲間のために懸命に歌う姿を街の人も見ることができた。

変化が訪れたのは3年前。学校の大規模化に伴ってアリーナでの開催が難しくなったのだ。生徒だけでも全員収容がやっとという状態になり、やむなく千葉市民会館大ホール(定員1001人)を使った開催に切り替えた。音魂祭という名前もこの頃に決定された。会場が打瀬中学校でなくなったことは地域住民が気軽に見に行けないという意味ではデメリットだが、学校行事としてはそう悪いことばかりではない。行事規模が大きくなったことで運営は複雑になり、生徒のマネジメント力を鍛える場になっている。また音響のよい大ホールで歌えることで生徒たちの士気も上がることになる。

学校の規模が大きくなることは、個々の生徒に目が届きにくくなることで嫌われる傾向があるが、大人数で行うことで中学生が持つ活動的な力を引き出せるという利点もあるようだ。

打瀬中学校には合唱のクラブ活動はないが、合唱のレベルは急速に向上している。卒業式、入学式の際来賓の間では合唱の美しさがいつも話題になるほどだ。合唱にはNHK音楽コンクールなど歴史のある全国大会も開かれている。打瀬中が出場する日も遠くないかもしれない。

10分ほど検討した後、各学年から結果をだしてもらい、最後に投票で今年の音魂祭のスローガンを「響け打瀬のハーモニー」と決定した。

なんとスピーディーですばらしい方法だ。ベイタウンの大人たちの会議でも見習ってはどうかと思われるほどスマートだった。いつもこんな方法でやっているのか、誰の発案なのか会議のあとで聞いてみたが、桐原委員長が自分で考え今回初めて実行したのだそうだ。

今回の会議で決まったことはそれぞれが会議前に配られたペーパーに書き込まれる。ペーパーにはその日決まったことを書き入れる欄も用意されていて、そのまま各クラス専用の議事録としてファイリングされる。ファイルは各クラスのホームルームの棚等で管理し、クラスの生徒がいつでも見られるようになっている。情報公開という点でもよく考えられたシステムだ。

こうして第2回の実行委員会は1時間ほどで終わった。中学生は忙しい、このあと彼らの大半はおしゃべりを楽しむ暇もなく、部活の練習に向かう。この時期、部活は夏の大会に向かってハードな練習がつづいている。会議後はすぐに頭を切り換え部活に集中し、更に帰宅後は受験勉強に集中することになる。こんな毎日のサイクルが彼らを鍛えるのだろう。記者が過ごした中学生時代は彼らから見ると実に「牧歌的」な時間だったようだ。

さて、ここまで音魂祭の舞台裏である運営について書いてきたが、実際の表舞台である合唱練習の方はどうなっているのだろうか。実は各学年各クラスでの選曲はすでに終わっていて、早いクラスではもう練習に取りかかっている。次回からは実際の練習の様子を取材させてもらい、ハーモニーがどのようにできていくのかをお知らせしたい。

# 溜先生が帰ってきた



溜昭代先生といえばベイタウンの街開きの頃からの住民には忘れられない名前だ。新設された「壁のない学校」打瀬小学校の初代校長として赴任し、「学校を核とした街作り」を提唱して地域と学校との連携に力を尽くした。ベイタウンの進歩的と言われる意識や文化はこの時代に醸成されたものだ。その溜先生が久しぶりに「教師」として美浜打瀬小学校の教壇に立った。今も児童の心をつかむ先生の授業取材した。【松村守康】

7月4日朝。美浜打瀬小に現れた溜先生を迎えたのは、かつて開校当時の打瀬小で溜校長のもとで新しい教育を支えた平野教頭先生。打瀬小で教務主任だった三浦先生も今は美浜打瀬小の校長として在任している。

今回先生が美浜打瀬小で授業を行ったのは、法務省管轄の千葉県人権擁護委員としての仕事。先生は打瀬小を退職後、執筆活動や大学での講義をする傍ら、人権問題、特に女性や子どもの人権擁護の活動をつづけている。今回の授業でもテーマは東日本大震災の児童疎開でも問題になった「いじめ」だ。

この日の授業では溜先生の他に美浜区を担当する人権擁護委員4人がそれぞれクラスごとに分かれて授業を行った。委員会では千葉市内各区に数名ごとの人権擁護委員を置き、区内の小中学校で同様の授業を

行っている。今回の授業はその一環だそうだ。

溜先生がこの日担任したのは4年1組。冒頭、先生が「人権ってなんでしょう」と問いかける。すると最後尾に座っていたK君が突然「憲法第11条で決められた…」と言い始めた。これには数多くの授業を行ってきた溜先生も驚いた。どこのクラスにも知識が豊富で難しい言葉を使う子どもはいるものだが、憲法まで出てくるのはさすがに初めてだ。

授業は法務省で用意した授業用アニメのDVDを教室に設置された大画面の液晶TVで見ながら、子どもたちが意見を出し合う形で進められた。アニメの中で登場する「いじめ役」や「いじめられ役」、「無関係派」などの人物をとりあげ、意見を出し合いながら進める。

「いじめ」に限らず現代の子どもたちへの授業は難しい。子どもたち、特にベイタウンの小学校のように知識の豊富な子どもたちが沢山いる学校では、「いじめ=悪い」という図式はすでに頭の中でできあがっている。テストで「いじめは悪いですか」と聞かれれば「悪い」と答える。知識としてはこれで十分だ。だが教えたいのは「なぜいじめが起きるのか」、「いじめはなぜ悪いのか」ということで、これは本の上の知識だけでは分からない。

いじめを行う子どもの気持ち、いじめられる子どもの気持ち、どうしていじめが起きたのかなどを子どもたちに考えてもらい、一人ずつ挙手して発表してもらおう。一人ひとりの意見をじっくり話させ、活発に何度も手を挙げる子には「みんなの意見を聞いてみようね」と言ってクラスの全員に発表してもらおう。

なぜいじめが起きるのか。最初は加害者の「わがまま」とか「自分勝手な性格」で片付けていた子どもたちの意見から、だんだん無関係で傍観者であった筈の自分がいつの間にか加害者になっていたことを反省する声が出てくる。取材しながら大所高所から見ているつもりだった記者本人も子どもの頃の行動を思い出しながら考えさせられてしまった。

授業が進むにつれ、いつの間にか「おしゃべり」は聞こえなくなり子どもたちの表情は真剣になる。溜先生の目の輝きもちがってきたように見えた。

実は溜先生の授業を実際に見るのは今回が初めてのことだ。先生が初代校長として打瀬小に赴任したのはベイタウンの街開きと同じ1997年。その頃はまだ外部からの不審者の問題もなく、住民は自由に子どもたちの授業の様子を見ることができたが、校長である先生が教壇に立つ姿を見ることはなかった。先生がどんな授業をするのか楽しみだったが、今回授業を見てやはり先生は子どもたちと直接接している姿が一番輝いているように思えた。先生の授業は大人が見ていても考えさせられる。次回打瀬の3小学校で授業がある際には是非公開してもらいたいと思った。

## 8月のコア・イベント

わくわくお話し会 8月の常設お話し会はお休みです

9月の常設お話し会は9/17(土)です。

時間：10:30～ 場所：ベイタウン・コア 講習室(途中入場もできます)

9月もわくわくするおはなしゲームを用意してお待ちしています。年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どももぜひ来てね！予約は不要です。\* 読み手も募集中、見学歓迎 \*

お問合せ先：井上 (211-0188 wak2@yahoo.co.jp)

ブログ更新中・見てね\*\* <http://waku.makusta.jp/>

8月27日(土) 寺子屋工作ランド

「ぶんぶんごま」

時間：9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア 工芸室

持ってくるもの：小刀、タオル

参加費：50円(保険料)

8月28日(日) ファツィオリの会(コア文化振興基金後援事業)

第97回ファツィオリの会

時間：午前9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

月に1度、休日の午前中イタリアのピアノ「ファツィオリ」を囲んで音楽を楽しむ会です。もちろんピアノ以外の楽器、歌の演奏などでも参加いただけます。

非公開でもご利用できますので、お気軽にお申込み下さい。

なお定員になり次第締め切らせていただきます

最新のプログラムは <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧下さい  
申込締切：8月20日(土)

連絡先：yasu602@ss.em-net.ne.jp、TEL&FAX 271-5260(安永)

# みはま病院が開院



8月1日、消防署とクリーンセンターに挟まれた場所で「医療法人社団誠仁会 みはま病院」が診療を開始した。スッキリと落ち着いた外観に「みはま病院」の文字が目立つ同病院がどのような診療を行っているのか取材してみた。【金】

現在ベイタウンの医療機関は、クリニック(6)、歯科(6)、接骨院など(3)、眼科(1)、動物病院(1)、薬局(4)となっているが、この度少し特殊な医療機関がベイタウンに進出してきた。泌尿器科と人工透析の専門施設である「みはま病院」である。みはま病院は1975年から検見川浜駅近くの真砂で診療を行ってきたが、病院施設が老朽化し手狭になったのを機に移転先を検討し、ベイタウンの地に移転する事となった。

新しい病院の規模は病床数50床、透析席数130席で、6名の医師を含む約130名のスタッフで運営されている。

透析は一生治療を受け続けなければならない、根本的な解決策としては腎臓の移植手術しかない。日本では諸外国に比べ移植件数が少ない現状であり、人口が高齢化し長生きするようになった事も透析を必要とする患者が増える要因となっている。いまのところ透析治療にかかる高額な医療費は公費補助でまかなわれ、患者自身の負担は少なく済んでいるが、更なる高齢化の進行は将来への不安を投げかける。

普通の病院にはない特徴としては、多数の臨床工学技士がいるME部(Medical Engineer)という部門を抱えている点。臨床工学技士とは国家資格で、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者をいう。みはま病院のME部では、院内の医療機器の保守・管理のみならず、全自動

透析装置の開発や、透析時の血圧の安定化が得られるという第3世代透析液の研究も行っているという。

今回、みはま病院の移転は、8月1日(月)からは新しい病院で患者を迎え入れる関係上、7月30日(土)の診療を終えて、その夜から翌日31日(日)にかけて突貫作業で行われた。なぜなら、医療免許の関係でひとつの病院でしか診療が行なえず、新旧の病院の両方で診療しながら徐々に移転することができないからだ。

前述したように、みはま病院は泌尿器科と人工透析の専門施設であるので普段の生活でお世話になる人は少ないと思われるが、1回あたり長時間の透析を週に数回行わなければならないベイタウン内の方には今回の移転は朗報であろう。そして、みはま病院では、昨年ワクチン不足が話題となったインフルエンザの予防接種などを、普通の病院と同じく対応しているというから、小さなお子さんがある家庭には病院の選択肢が増える嬉しい状況だ。

街開き当初を思えば、ベイタウン内でも医療機関が増え安心できる状況に変わっているが、取材を通して透析の大変さを知り、普段の生活習慣に気を配り、健康的な生活を送る事を心掛けたいと強く思った。

## 人工透析と糖尿病について

尿をつくる大事な機能をもつ腎臓は、こぶし大の大きさで身体の左右にあり、ひとつの重さはわずか150gだが、体内の必要な物を再吸収して不要なものを尿として排出し、健康を保つための重要な役割を担っている。1日に約150～180ℓの血液がろ過されているが、尿となるのは1.2ℓ程度である。

人工透析とは、その腎臓が十分な機能を果たさなくなったときに、人工の透析膜を使って老廃物と毒素を取り除くため、血液の一部を循環させることを言い、通常1回4時間の透析を週2～3回行うことになる。

つまり腎臓には尿管も通っているので泌尿器との関係は密接で、必然的に人工透析を行っている病院には泌尿器科がおかれることになる。人工透析を必要とする人には糖尿病患者が多く、日本では血糖値を下げる働きをするインスリンの量が少なくなって起こる「2型糖尿病」患者が9割以上を占めている。

2型は遺伝も強く作用するが、食事や運動不足などの生活習慣が原因になる場合が多く、中年以降の発症例の多くは2型糖尿病である。平成19年の国民健康・栄養調査によると、「糖尿病が強く疑われる人」890万人と、「糖尿病の可能性を否定できない人」1,320万人を合わせると、全国に2,210万人いると推定されているが、糖尿病が疑われる人の約4割がほとんど治療を受けたことがないという。

万病のもととも呼ばれる糖尿病が恐れられる理由は、さまざまな病気を引き起こす慢性合併症を誘発するからで、それは失明や死にもいたる恐ろしいものであり、平成19年の統計では交通事故死者よりも多い年間1万4千人が糖尿病で亡くなっている。

## ベイタウン文化振興基金からコンサートのお知らせ

### FAZIOLI が奏でたショパンコンクールのすべて

～コンクール公式ピアノ FAZIOLI の調律師が語り、日本人最上位ピアニスト渡辺友理が FAZIOLI でショパンを弾く～

日時：2011年8月27日(土)  
開場 13:30 開演 14:00  
場所：幕張ベイタウン・コア音楽ホール  
チケット：大人(高校生以上)2000円、中学生まで1500円  
問い合わせ：  
大垣(TEL:276-3878)、  
松村(TEL:211-6853)

開催日時が当初発表より1日早まっています。ご注意ください。

FAZIOLI が奏でた  
ショパンコンクールのすべて

注目のピアニスト FAZIOLI を弾き  
ショパンコンクール公式調律師 越智 貴氏が語り  
同コンクール日本人最上位渡辺友理さんが弾く

2011 | 8 | 27 | (土)  
午後2時開演 14時開演

ショパンコンクール 日本人最上位  
ピアニスト 渡辺友理さん

ピアノ：FAZIOLI

会場：幕張ベイタウン・コア音楽ホール

チケット：大人(高校生以上)2000円、中学生まで1500円

問い合わせ：  
大垣(TEL:276-3878)、  
松村(TEL:211-6853)

## 子育てサロンを9月から毎月2回開催します！！

「子育てサロン」の開催日が9月から月2回になります。  
開催日：第1,3水曜日 時間：10:00～11:45  
場所：ミラリオ第2集会室 和室  
お問い合わせ：長田 211-1676  
花藤 211-7740 (rumiko-h@ab.auone-net.jp)

お母さんと赤ちゃんの交流の場です。未就学児でしたら、ご兄弟連れでも大歓迎です。暑い日が続きますが、気軽にお出かけ下さい。

## ベイタウンオーケストラ公開リハーサル

NHK 交響楽団コントラバス奏者の井戸田善之氏を指揮者に招いての公開練習です。今回は公開リハーサルのため入場は無料です。席数が約40名と少ないのでお早めにおいでください。  
日時：2011年8月14日(日) 15:30～17:00  
場所：幕張ベイタウン・コア音楽ホール  
ピアノ：根津理恵子 指揮：井戸田善之  
演奏曲：ショパン ピアノ協奏曲第2番

## 幕張ベイタウン協議会設立のお知らせ

去る6月25日、「幕張ベイタウン協議会」の設立総会が開催されました。協議会設立時点では、7街区の自治会・管理組合＋ベイタウン商店会の8団体、24名の個人の参加を得てスタートしました。協議会の設立にあたっては、全ての街区（自治会・管理組合）への呼びかけ及び掲示等による案内が行われ、総会当日は会員以外にも未加入の街区または個人によるオブザーバー参加が23名ありました。また街区としての参加を決めていないところは加入承認手続き待ちか様子見というところもあります。一方、これまでベイタウンのさまざまな課題に取り組んで活動を行ってきたベイタウン自治会連合会は、協議会の支援を行うとして7月の定例会で連合会での参加を決定したところです（連合会としての参加と個々の街区としての参加は総論と各論による違いとして整理）。

「幕張ベイタウン協議会」とは何か？自治会連合会と何が違うのか？わかりにくい組織だという声があることは、協議会設立に関わったメンバーは十分理解しています。協議会は、各街区やお住まいの方々からの声を受け止めながらベイタウンとしての一定のまとまりを示し、平成24年度末にはなくなってしまう千葉県企業庁、公共施設の移管を受けている千葉市などと協議を行う窓口としての役割を担う必要があります。そのためには、会員は街区だけではなく、個人、就業者、ベイタウン内の各種団体と幅広い対象とした組織として立ち上げることが現時点ではベターな選択肢であると考えました。

総会の席上でも、なぜ各代表が集まって決めないのかという意見はあったものの、これまでの活動経緯を踏まえて協議会の設立趣旨は理解されて承認されました。将来的には、住民を代表する組織として位置づ

けがされることが望ましいのですが、住民総意の考え方、街区ごとの意見の取りまとめ方、街区によっては管理組合と自治会どちらが関与すべきかなど、細かい決めごとを定めるまでにはまだまだ課題が多くあります。当面は意思決定機関としてではなく、情報の収集・展開、住民からの意見聴取や意見交換など、方向性を探りながら住民側の窓口として行政側とのやりとりを行い、それらを住民に対してフィードバックしていく役割をきちんと果たしていくことが適切であると考えています。

そもそもこの協議会は、平成19年度に千葉県企業庁主催による、千葉市、住宅事業者、住民代表（自治会連合会）の参加による「幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会」における検討において、ベイタウンの管理運営組織の必要性が打ち出されたことに伴い、住民組織の立ち上げが準備されたことがきっかけです。平成20年3月に協議会設立準備会が開催され、その場で募った住民有志が中心となって、さまざまな検討作業を行う作業部会が立ち上がり、実質的な活動が展開され始めました。有志のメンバーも少しずつ顔ぶれが増え、現在までの4年間にわたる活動は、有志による検討とはいえ、月1～2回の「作業部会」を中心に相当な時間がかけています。また、住民向けシンポジウムや街歩きなどの企画も実施され、これらは「ベイタウンまちそだて」というニュース形式でこれまで10号にわたり、全戸に配布してお知らせしてきましたので、過去の経緯などはぜひ読み直していただきたいところです。（コアのアトリウムにてバックナンバーを入手できます。）

先日もベイタウンのまちづくりコンセプトを知る「景観ガイドツアー」を行いました。定員を超える参加者で盛況となったこ

とは、住民自身のベイタウンの街並みへの関心が高いことを示したと思います。このベイタウンの街並みを将来にわたってどのように維持できるかというのは、実はこの街の大きな課題のひとつです。街並み景観の維持につながるひとつの方策として、「景観法」という法律にもとづき定められる千葉市景観計画において、ベイタウンが景観形成推進地区の指定を受けることが考えられます。協議会では、これまでも千葉市都市景観デザイン室とは調整を図ってきており、今後もこの景観法の指定を活動のひとつに位置付けていくこととなります。

また、この街並み景観を維持するための重要な施設である「ゴミ空気輸送システム」の問題もあります。この施設の千葉市への移管、いずれ機械設備の更新時期を迎えたときの対応など、ベイタウン住民にとっては非常に大きな関心事であります。

これまで千葉県企業庁があることで、特に考えなくてよかったいくつもの課題について、企業庁の閉庁、千葉市への移管にもなって、住民がこのベイタウンを将来にわたってどうしていきたいのか、単なる「おしゃれな街並みに住むこと」を良しとするのではなく、ベイタウンの持つ高い質を自分たちの資産価値維持につなげるために何をすべきか、そういった議論や意見を交わす場として、協議会がその役割を担っていければと思います。

日本では例のない街づくりによってできたベイタウン、この街に住む私たちは初めから既成概念にとらわれることもないので、新しい考え方、ベイタウンならではの目指すべき方向性を考え、また協議会もそういった固定観念にとらわれない組織であってもよいと思います。結果としてその手始めが、この協議会の「ゆるやかな」組織体としてのスタートなのかもしれません。

問合せ先：bt-machi@yahoogroups.jp

## 海浜大通り横断歩道橋の名前を募集

千葉県企業庁が海浜大通りにベイタウンと幕張の浜を結ぶ新たな横断歩道橋を建設中です。自治会連合会では歩道橋の名前を一般から公募することにしました。たくさんの方の応募をお待ちします。

### 海浜大通り横断歩道橋名募集

応募資格：ベイタウン居住者およびベイタウンに勤務する方

募集内容：バレンタイン通りから海浜幕張公園（幕張の浜の部分）への横断歩道橋の名前。ただし、10文字以内（複数案応募可能）

募集期限：2011年8月31日まで

応募方法：下の応募用紙に横断歩道橋名と必要事項を記入し、ベイタウン・コアまたはベイタウン郵便局に設置した応募箱に投

函してください。お一人で複数案を応募する場合は応募用紙をコピーしてお使いください。

審査委員：自治会連合会、民生委員・児童委員協議会、青少年育成委員会、ベイタウン商店会、社会体育振興会、社会福祉協議会打瀬地区部会の各会長

審査基準：名前はカタカナ、ひらがな、漢字で10文字以内です。アルファベットは使えません。ベイタウンにふさわしい、親しみのある名前をつけてください。なお、採用された作品（名称）の著作権及びその他の権利は千葉県（または道路管理者）に帰属することとします。お預かりした個人情報情報は、海浜大通り横断歩道橋名募集のために使用し、他の目的には使用しません。特典：審査のうえ決定された歩道橋名を提案した方には粗品を進呈し、歩道橋の開通後に行われる開橋式典に招待します。

橋の名前（カタカナ、ひらがな、漢字で10文字以内）									
お住まい・連絡先					お名前				
番街名： _____ 号									
お電話番号： _____									